

① 園舎の改修工事について

Q 小学校に就学したときのために各トイレに1ヶ所でも和式トイレを残して欲しいと要望していましたが、説明内容ではすべて洋式便器に改修されることになっています。何故すべて洋式便器に改修するのですか。また、小学校のトイレはいつすべて洋式便器になるのですか。

A 小学校のトイレも和式便器から洋式便器に順次改修されているため、そのことを考慮してすべて洋式便器に改修することにしました。小学校のトイレが洋式便器に改修される時期につきましては、予算や国の補助金の関係があるため正確にお答えできません。

Q 駐輪場は整備してもらえるのですか。

A 駐輪場につきましては、20台程度を駐輪できるように、幼稚園舎北側に2ヶ所に分けて設置予定です。

Q 神功保育園の0歳児の保育室は2階に配置されていますが、こども園に移行するにあたり、0歳児の保育室を1階に配置してはどうですか。

A 例えば、火事の場合を考えれば1階に配置することがよいが、不審者の対策であれば2階に配置することがよい場合もあるなど、保育室の配置は議論がある部分ですので、引き続き検討していきます。

Q 改修工事の間は、園児はどこで過ごすのですか。また、その間は園庭で遊べるのですか。

A 幼稚園舎の改修工事は夏休み期間を有効に活用した工程を組む予定です。幼稚園舎の改修工事終了後に引き続き保育園舎の改修工事を予定していますが、保育園舎の改修工事期間中は園児の安全性の確保や工事期間の短縮を図るため、保育園児の一部はリニューアルした幼稚園舎に移ってもらい保育できないか検討しています。なお、スケジュールの詳細や工事期間中に園庭で遊べるかなど、具体的なことにつきましては、今後さらに園職員や工事担当課との検討を進め、工事業者が決定後に確定することになります。

② こども園における教育・保育の内容について

Q 幼小連携は今までどおり行われるのですか。

A 具体的なことは、これまでの各園の取り組みを基に、前例を参考にしながら、右京と神功それぞれの小学校と連携を取り、円滑に入学できるように検討していきます。なお、他園の例を挙げますと佐保台幼稚園と左京幼稚園から移行した左京こども園では、佐保台と左京のそれぞれの小学校と連携を行っています。

Q こども園になった場合にサービスを充実させると聞いていましたが、具体的なサービスや教育・保育の内容を教えてください。

A 幼稚園的な利用の園児であれば、3年保育の実施と給食の提供があります。また、教育・保育の内容につきましては、具体的には国が定めた「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に基づき、本市の特色を活かして作成した「奈良市立こども園カリキュラム」に沿って発達段階を踏まえた教育・保育を行います。この「奈良市立こども園カリキュラム」は幼稚園教員と保育所保育士が総力を結集して作成されたもので、奈良市のすべての子どもに一貫した共通の教育・保育内容を提供するとともに、確かな育ちを保障していくことをめざし実践しています。

Q 延長保育はいつでも利用できるのですか。

A 利用料金は発生しますが、利用にあたっての条件や回数の制限はありません。

<p>Q こども園の1日の流れは、説明資料のとおりなのですか。</p>
<p>A 基本的にはこの流れですが、時間は目安となっています。また、これまでの園の方針や園児の年齢等によって違いが出てきます。</p>
<p>Q こども園になることにより、お昼寝など園児の生活はどのように変わりますか。</p>
<p>A こども園では、3～5歳児は幼稚園的な利用の園児と保育園的な利用の園児が同じクラスで教育・保育を受けています。一日の生活の流れの一例をあげますと、いわゆる9時から14時のコアタイムは、すべての園児の共通利用時間としています。その前後の時間帯は、異年齢間での交流保育などを実施しています。なお、昼食後13時ごろからは、「14時に降園する幼稚園的な利用の園児のグループ」と「お昼寝等をする保育園的な利用及び預かり保育利用の園児のグループ」が別々の保育室に分かれることで、今までとお昼寝の時間がずれたり、保護者のお迎えの時間の違いで園児たちが寂しい思いをしないような工夫をしています。</p>
<p>Q こども園になれば、地域のすべての子どもが入園できるのですか。</p>
<p>A 定員につきましては、現状の園児数、過去の園児数、地域の就学前の子どもの数などを考慮して設定していますが、地域のすべての子どもが入園できる設定ではありません。例えば私立園に入園する場合がありますので、現状のニーズがあるものは受け入れられるように、例えば5歳児は2クラス編成計60人程度の定員を想定しています。また、1号認定と2号認定子どもの定員内訳などは1年ごとに見直しており、状況に応じた定員設定をしています。</p>
<p>Q 分園方式でこども園に移行することについてのメリットとデメリットを教えてください。</p>
<p>A メリットは、既存施設を有効に活用できることです。例えば、再編後の（仮称）神功こども園と同程度の規模で運営している保育園では時間帯を分けるなどで、乳児と幼児で園庭を使い分けている場合もありますが、分園になることで、それぞれの年齢に応じた園庭の使い方がスムーズにできます。また、デメリットは、きょうだい関係がある園児の送迎が挙げられます。</p>
<p>Q 幼稚園では降園時間後などに園庭を開放し親子でふれあえる時間がありましたが、こども園になった場合は、保育園的な利用の園児にはお昼寝の時間があるため、回数が少なくなったり、それ自体がなくなると聞きましたが、園庭開放はどうか教えてください。</p>
<p>A 幼稚園で行われている降園時間後などの園庭開放につきましては、今後園職員等と検討していきます。なお、未就園児向けの園庭開放につきましては、引き続きこども園における子育て支援事業の一つとして、充実させて行っていきます。</p>
<p>Q 土曜日の保育時間と内容を教えてください。</p>
<p>A 土曜日の開園時間は現在の神功保育園と同じように7:30～17:00までを予定しています。保育内容につきましても、現在の神功保育園のように基本的な1日の流れは同じですが、土曜日は園児が少数であるため、より一人ひとりに応じた保育や異年齢間の園児交流などが保育内容の中心となります。</p>
<p>Q 運動会や夏祭りなどの行事や行事を行う場所はどのようになりますか。また、きょうだいがいる場合に保育参観などの行事は両方に参加できるようにしてほしいです。</p>
<p>A 具体的なことは、今後園職員や子ども未来部の職員で検討していきますが、きょうだい関係のいる保護者や就労されている方、いない方もおられることを考慮して検討します。</p>

Q	幼稚園的な利用の園児と保育園的な利用の園児が一緒のクラスになるとのことですが、クラス分けはどのように行うのですか。また、クラスが一緒になることにより、行事も合同で行うことになるのですか。
A	こども園では満3歳以上の園児は認定区分に係わらず、年齢ごとに学級を編成し共通利用時間において一緒に活動しますので、行事につきましても合同で行います。なお、0～2歳児は保育園と同じです。クラス分けにつきましては、すべての園児がよりよい教育・保育を受け、成長できる環境を提供できるように園児数や認定区分、発達段階などを総合的に考慮しながら行っています。

Q	保育中に保育園舎と幼稚園舎間の移動はありますか。その場合、雨だとどのように移動するのですか。
A	基本的には、保育中に保育園舎と幼稚園舎間を頻繁に往来することは考えていませんが、雨の日の対応につきましては、雨具を用意していただくことで足りるのか等、今後検討していきます。

Q	異年齢間の園児交流をなくさないで欲しいです。
A	現状神功保育園では、異年齢間の交流を保育計画に基づき、計画的に実施していますので、分園方式によるこども園への移行後も、こども園カリキュラムに基づき引き続き実施していきます。

Q	給食提供の際のアレルギー対応について教えてください。
A	アレルギー対応につきましては、現在も管理栄養士の指導の下、保育園・こども園で行っており、十分なノウハウがあります。基本的に除去可能なものは除去を行い、園での対応がどうしても難しい場合は、自宅から代替食やお弁当を持ってきてもらうことで対応をしています。

③ こども園の職員配置等について

Q	こども園の先生の資格はどのようなものですか。
A	職員の資格は、幼稚園であれば幼稚園教諭の免許、保育所であれば保育士資格と分かれています。実態は多くの職員が両方の免許・資格を持っています。こども園の職員は原則両方の免許・資格を持っている「保育教諭」であり、奈良市では順次こども園に移行していく計画の基、当該職種も一本化しています。

Q	先生の配置はどのようになりますか。また、園の規模が大きくなると思いますが、今までと同じような園運営ができるのですか。
A	基本的に職員が大きく入れ替わることがないように配慮しています。また、3園が再編されることになるため、園児の環境が変わらないように保育の連続性を考慮した配置ができればと考えています。職員に関する部分は特に重要であると認識しており、こども園移行後もスムーズな園運営ができるように、今後検討していきます。

Q	先生の人数を減らさないでほしいです。先生の人数が少なくなれば、後々園児数が増えた場合に先生を増やすなどの対応ができないのではないですか。
A	職員の配置基準は、0歳児は3：1、1・2歳児は6：1、3歳児は20：1、4・5歳児は30：1と国基準で定められています。また、園児数等が増えた場合の対応は、現在も必要に応じて人事異動等で対応しています。

Q	先生の配置はいつ頃決まりますか。
A	園児募集が終了し、園児の数が確定してからでないと決められないため、例年3月頃に決定しています。

Q	先生の仕事内容について、新たな研修や、幼稚園と保育園の先生での情報交換は行われるのですか。
A	こども園の職員は原則両方の免許・資格を持っている「保育教諭」となりますので、職種に関係なく情報交換は行われます。なお、研修につきましては、現在も園職員は教育・保育に関する様々な研修を受けていますが、今後もこども園に関する研修も含め様々な研修を受けていくこととなります。奈良市では、すでにこれまでの幼稚園教諭と保育士の職種を統一して「保育教育士」としており、研修体系も共通のものです。また、再編に際しては、園職員が十分に情報交換を行い、こども園移行後もスムーズに園運営が行えるようにします。

④ 送迎・駐車場について

Q	こども園になることにより、今よりも送迎に時間が掛かる場合に開園時間を少しでも延長してもらえませんか。また、それが無理な場合は優先的に転園できますか。
A	こども園の開園時間は基本的には7:30~18:30で考えています。分園方式を導入することについては、きょうだい関係がある園児の送迎を保育園舎に集約することで配慮しようと考えていますが、少しでも延長できるか検討します。なお、転園につきましては、利用調整により入所の可否が決定されるため、優先的に転園することはできません。

Q	朝の時間帯の駐車場として高の原コミュニティスポーツ会館を活用することについて、神功小学校の登校時間と重なるとはと思いますが、何か配慮は考えていますか。
A	小学校の登校の状況を確認した上で検討します。なお、駐車場の利用に際しては、きちんとルールを定め運用していきます。

Q	通園バスを出してもらえませんか。
A	バスは送り迎えの際の職員と保護者の接点が減ってしまうことや財政的な問題等から、市の方針として通園バスは運行しません。その代わりに、教育・保育の内容を充実させていきたいと考えています。なお、駐車場や駐輪場を必要に応じて整備し、なるべく保護者の負担とならないようにしていきます。

Q	幼稚園的な利用の園児も車で通園できるのですか。また徒歩と車の通園の線引きなどはありますか。
A	基本的には、これまでの市立幼稚園の方針として、大事にしてきた徒歩通園の考え方を考えるものではありません。ただし、何か特段の事情がある場合の幼稚園的な利用の園児は、車で通園できるようにしたいと考えています。徒歩と車の通園の線引きにつきましては、今後駐車場の状況や園児数などを考慮しながら検討していきます。

Q	保育園舎と幼稚園舎の間の道路の横断が増えることが予想されますが、歩道橋にスロープがなく、横断歩道もないためベビーカーでは危険だと思います。歩道橋にスロープを設置してもらえませんか。
A	歩道橋へのスロープ設置につきましては、市の担当課に問い合わせたところ、歩道橋の傾斜が急であり、幼稚園舎側の出入り口が車道側に向いているため安全面を考慮すると設置は難しいとの見解のため、設置しない方向です。

⑤ その他

Q 今よりも車の往来が増えることや、地域行事への参加など、地域住民への説明と理解をしっかりと行って欲しいです。

A 今後も引き続き地域への説明を行います。また、今まで参加してきた地域行事へはできる限り参加できるよう検討しています。

Q こども園になった場合に保護者会やPTAはどうなりますか。

A 市が方向性を決めることはできません。ただし、必要に応じて、園職員や子ども未来部の職員も一緒に考えていきます。参考に他園の例を挙げますと、帯解こども園の場合は、保育園の保護者が百数人と幼稚園が十数人でしたが、相談の結果、市PTA連合会に加入することになりました。他では、都祁こども園や月ヶ瀬こども園は、市PTA連合会に加入していないなど、こども園によって違いがあります。また、保育園的な利用の園児の保護者がPTAの会長になったケースもあります。